

Link To Next Treasure

～数珠つなぎで広がる知り合いの縁～

■メンバー紹介

Busy Bees

庄司 昌仁

Cho Kyi

佐藤 有莉佳

池谷 圭介

五十嵐 太郎

加藤 海



■ タイムライン



★第1回ワークショップ

★第2回ワークショップ

★第2回フィールドワーク(原町商店街散策)

★第4回フィールドワーク(お試し実証実験)

★今後に向けて

○人との繋がり

○気軽に繋がれる場

○仙台に定着するには？

○もっと身近な繋がり

★第1回フィールドワーク(仙台ふららん取材)

★第3回ワークショップ

★第3回フィールドワーク(アンケート)

★第4回ワークショップ

★第1回ワークショップ

・公園などの遊ぶ場所の少なさ

・スポーツなどのイベントの機会が少ない

・仙台に人が定着しない

・学生・転勤の人がすぐに出て行ってしまう

・人の交流が希薄になってしまっている

・コロナ禍だから？

①人と人の繋がりを創ること

②仙台の魅力を伝える「情報発信者」を創ること

★第1回ワークショップ



- ・「**コミュニティがあれば仙台に人が定着する**」

→さらにそのコミュニティが仙台の魅力発信や人との交流の場というような、「繋がり」があれば、さらに定着してくれるのではないのか。

- ・「**仙台**」での繋がりとして「**歴史**」や「**文化**」がコミュニティの繋がりとして良いのではないのか？

★第1回フィールドワーク(仙台ふららん取材)



まち歩きコース一覧



仙台のまつり白櫻と七夕飾り作り体験



タモリさんも歩いた「水と地形の散歩道」



上級家臣の住宅事情や忽然と消えた岸敷の謎



仙台名物片手においしい仙台を知る



瑞鳳殿と仙台城跡で伊達男の神秘に触れる



仙台の和菓子と東北の民藝あじわい散歩



六代目こけし工人おすすめのこけし散歩



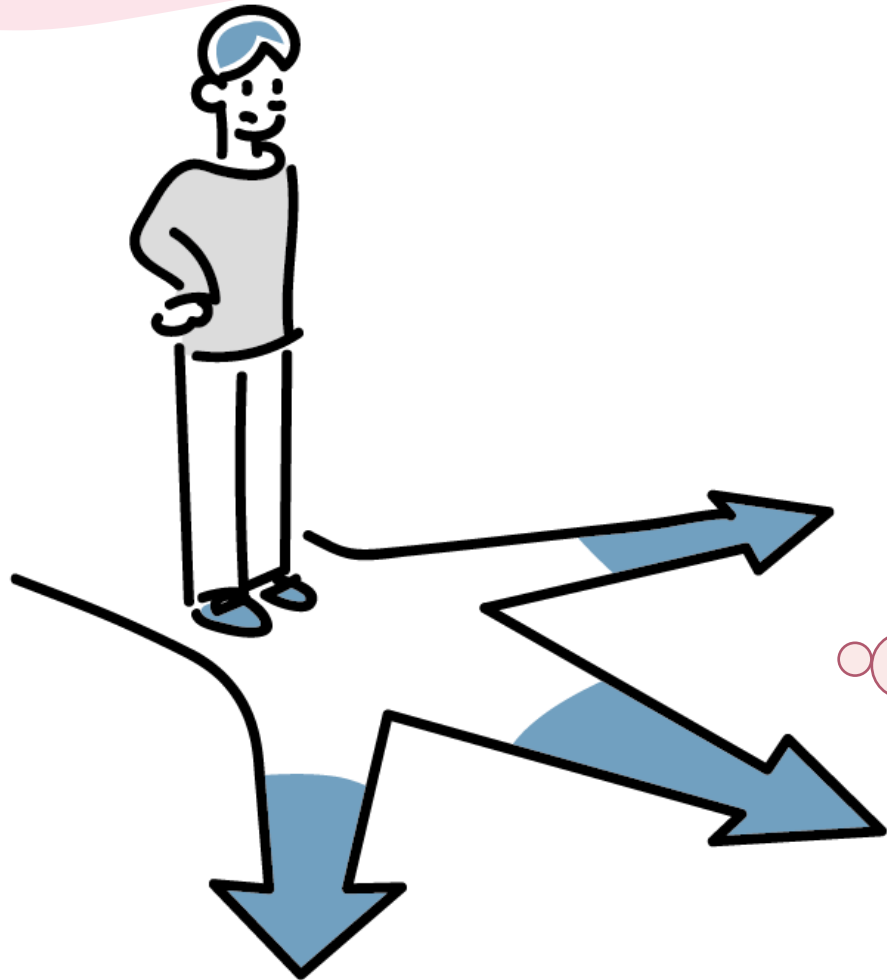
ケヤキ並木の隠れ家カフェと雑貨店めぐり



・仙台の歴史と文化を中心に「街歩き観光」に特化したツアーサービスを提供する事業を行っている仙台ふららんさんへインタビューを行った。

ガイドさんが、「紹介したい仙台」「好きな仙台」の視点でツアーを設定

★第1回フィールドワークから得たもの



ローカルな情報発信をしている方々はある。しかし、若者をはじめ、なかなか仙台市民にリーチできていない（情報発信がうまくいっていない？）

人が仙台に来て離れてしまう事に対しては、「**離れていても繋がれる何か（関りなど）**」が大事なのではないのか

★第2回ワークショップ

・仙台ふららんさんから、まちづくりの概念が大きすぎるので、まちづくりに携わっている商店街の方々へ話を聞くのも参考になるというアドバイスをいただいた。

・商店街のまちづくりと繋がりがどのように関係しているのかを知るため第2回フィールドワークを商店街に定めた。

・ふららんさんから盛り上がっているとおすすめしていただいたのが、八幡町、秋保、原町など。
→→→→→ホームページで歴史を紹介していたり、Twitterで情報発信を行っている原町を歩いて見学することにした。

★第2回フィールドワーク(原町商店街散策)



■気づき、学び

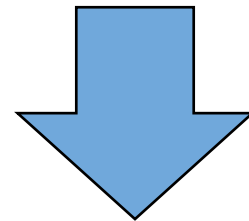
- ・原町商店街の歴史を体感
- ・実際に街歩きをしたことでイメージを持つことが出来た

■課題

- ・「商店街からの仙台の魅力発信のお手伝い」の具体的な絵を描くことは難しいと感じられた。

★第3回ワークショップ°

- 商店街を散策して、「自分ごと」として考えるにはスケールが大きすぎということに気付いた。
- もっと身近なことで繋がりを意識するべき！



テーマとして、「**気軽に繋がる**」を重点にすることにした

- 「気軽に繋がる」ために、1人ではコミュニティに飛び込むのが難しい人も多く居る。

→積極層とそうでない人との差が大きい!

- コミュニティなどに参加してみたいが、1人では勇気が出ない中間層をどのようにコミュニティへ巻き込んでいくべきか

どのような方法で
アプローチするか



★既存のコミュニティ
にアプローチをかけ
参加ハードルの解消

★個人マッチングの
ようなイベント

★ハードルを低くした
アイスブレイク
のようなもの



★第3回フィールドワーク(アンケート)

- 積極層と中間層の違いを知るため、仙台まちづくり若者ラボに参加しているメンバーに、



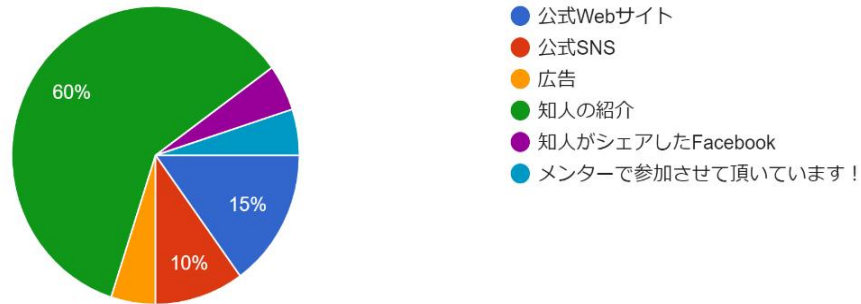
- ①どのような理由で参加したのか
- ②参加を決めるまでにどのように感じていたのか

などの質問をLINEでアンケートを行った。

アンケートの結果から

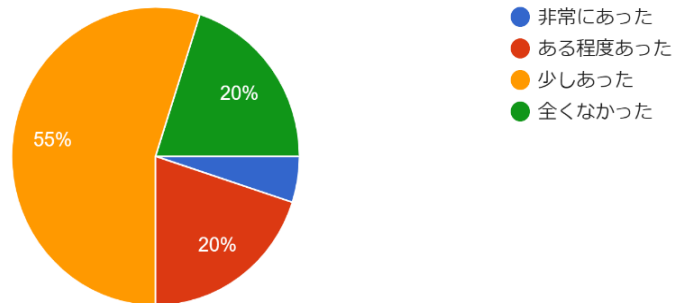
Q1.仙台まちづくり若者ラボを知ったきっかけは何ですか？

20件の回答



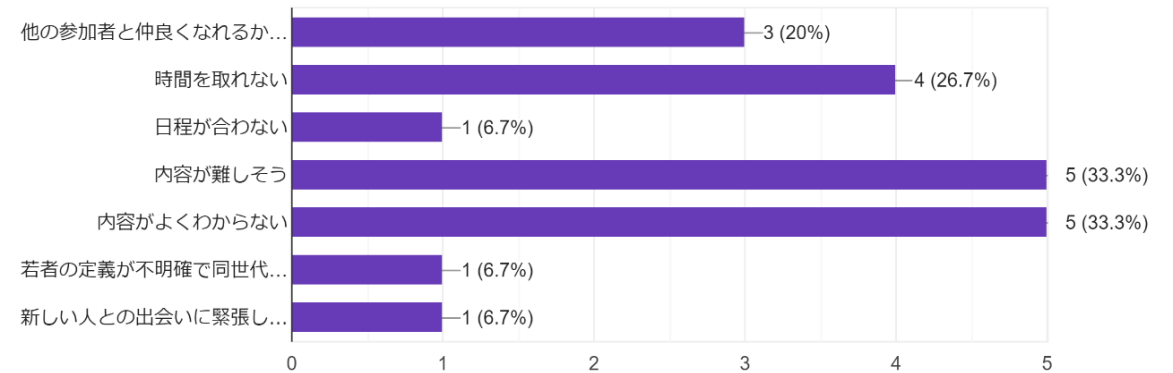
Q4.仙台まちづくり若者ラボに参加する際、どれくらいの心理的ハードルがありましたか？

20件の回答



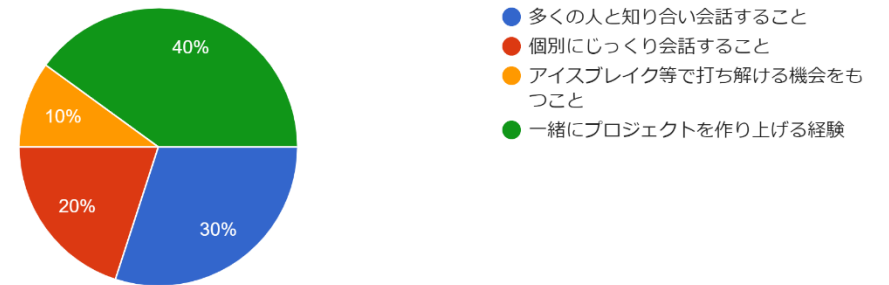
Q5.Q4で「非常にあった」「ある程度あった」「...は具体的にどういったものでしたか？(複数回答可)」

15件の回答



Q7.若者同士が繋がるチャンスを増やすためにはどういった事が必要だと思いますか？

20件の回答



⇒ 参加ハードルがあっても知り合いと一緒になら参加できる？

⇒ 繋がるハードルを更に低くしていくためには？

★第4回ワークショップ

- 気軽に繋がることができる最初の一歩としてのイベントを企画したい！

- ターゲット : 繋がりたいけど繋がれない若者
- 趣旨 : 知り合いの知り合いと繋がる機会を作る。
- アクティビティ : 「雑談の場」「ボードゲーム」「散歩/ピクニック」
- 目指す姿 : 数珠繋ぎを伝播させ縁を広げていくイメージ。
- 課題 : ターゲット層へのアプローチ方法



★第4回フィールドワーク(お試し実証実験)



まずはお試しで、

- チームメンバーの知り合いを誘って
- ボードゲームカフェで
- ハードル低くつながってみる！



★今後に向けて

- ・「ゆるいつながりが広がれば、仙台はもっと魅力的な街になる」

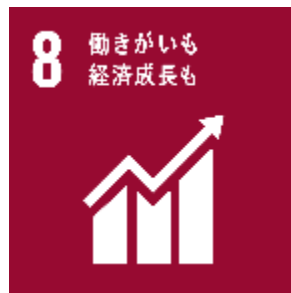
学生同士、社会人同士のつながりはもちろんのこと

学生×社会人、若手×ベテラン、日本人×外国人 等の

様々な交流の場づくりを通して

数珠つなぎで縁が広がる魅力的な街を創りたい。

その小さい一歩目を踏むお手伝いをしていきたい。





ご清聴ありがとうございました